

重要なお知らせ

常用漢字表改定に伴う
日本漢字能力検定の対応について

平成24年度(2012年度)から 日本漢字能力検定の 審査基準を改定します。

平成24年(2012年)2月

本冊子は、平成24年度から改定する
日本漢字能力検定の審査基準に関する解説資料です。

※平成23年8月に発表した内容から変更になった箇所があります。

特に、Q&AのQ.3(対象漢字数と字種について)と
Q.18(問題集について)は再度お読みください。

各級の配当漢字は漢検ホームページをご覧ください。



財団法人 日本漢字能力検定協会

平成24年度(2012年度)第1回から 日本漢字能力検定の審査基準を改定します。

■審査基準とは

日本漢字能力検定における審査基準とは、各級の検定で受検者の漢字能力を審査するための基準となるものです。各級の検定で対象となる漢字の範囲やそれらの漢字に関して適用される領域・内容を示しています。

■変更の背景

平成22年(2010年)11月30日付けで新しい常用漢字表が告示されたことに伴い、日本漢字能力検定の審査基準を見直し、平成24年度から新しい審査基準で検定を行うこととしました。

■級のレベルについて

日本漢字能力検定は、社会生活や学校教育で必要とされる漢字能力の習得の度合いを測定する検定です。漢字の読み書きのみならず、漢字に関する総合的な能力を問う出題内容となっています。

そのため、新しい審査基準においても、各級のレベル(例：3級=中学校卒業程度)や合格基準は変わりません。

■新しい審査基準 (平成24年度～)

10級	
【程度】	小学校第1学年の学習漢字を理解し、文や文章の中で使える。
【領域・内容】	《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表の第1学年の学習漢字を読み、書くことができる。 《筆順》 点画の長短、接し方や交わり方、筆順および総画数を理解している。

9級	
【程度】	小学校第2学年までの学習漢字を理解し、文や文章の中で使える。
【領域・内容】	《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表の第2学年までの学習漢字を読み、書くことができる。 《筆順》 点画の長短、接し方や交わり方、筆順および総画数を理解している。

8級	
【程度】	小学校第3学年までの学習漢字を理解し、文や文章の中で使える。
【領域・内容】	《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表の第3学年までの学習漢字を読み、書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを理解していること 送り仮名に注意して正しく書けること(食べる、楽しい、後ろ など) 対義語の大体を理解していること(勝つ-負ける、重い-軽い など) 同音異字を理解していること(反対、体育、期待、太陽 など) 《筆順》筆順、総画数を正しく理解している。 《部首》主な部首を理解している。

7級	
【程度】	小学校第4学年までの学習漢字を理解し、文章の中で正しく使える。
【領域・内容】	《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表の第4学年までの学習漢字を読み、書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを正しく理解していること 送り仮名に注意して正しく書けること(等しい、短い、流れる など) 熟語の構成を知っていること 対義語の大体を理解していること(入学-卒業、得点-失点 など) 同音異字を理解していること(健康、高校、広告、外交 など) 《筆順》筆順、総画数を正しく理解している。 《部首》部首を理解している。

6級	
【程度】	小学校第5学年までの学習漢字を理解し、文章の中で漢字が果たしている役割を知り、正しく使える。
【領域・内容】	《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表の第5学年までの学習漢字を読み、書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを正しく理解していること 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること(告げる、失う など) 熟語の構成を知っていること(上下、絵画、大木、読書、不明 など) 対義語、類義語の大体を理解していること(禁止-許可、平等-均等 など) 同音・同訓異字を正しく理解していること 《筆順》筆順、総画数を正しく理解している。 《部首》部首を理解している。

5級	
【程度】	小学校第6学年までの学習漢字を理解し、文章の中で漢字が果たしている役割に対する知識を身に付け、漢字を文章の中で適切に使える。
【領域・内容】	《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表の第6学年までの学習漢字を読み、書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを正しく理解していること 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること 熟語の構成を知っていること 対義語、類義語を正しく理解していること 同音・同訓異字を正しく理解していること 《四字熟語》 四字熟語を正しく理解している(有名無実、郷土芸能 など)。 《筆順》筆順、総画数を正しく理解している。 《部首》部首を理解し、識別できる。

※具体的な改定時期については、本冊子6ページのQ2をご覧ください。

4級	
【程度】	常用漢字*のうち約1300字を理解し、文章の中で適切に使える。
【領域・内容】	<p>《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表のすべての漢字と、その他の常用漢字約300字の読み書きを習得し、文章の中で適切に使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを正しく理解していること 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること 熟語の構成を正しく理解していること 熟字訓、当て字を理解していること (小豆／あずき、土産／みやげ など) 対義語、類義語、同音・同訓異字を正しく理解していること <p>《四字熟語》 四字熟語を理解している。</p> <p>《部首》 部首を識別し、漢字の構成と意味を理解している。</p>

*常用漢字とは、平成22年11月30日付内閣告示による「常用漢字表」に示された2136字をいう。

3級	
【程度】	常用漢字*のうち約1600字を理解し、文章の中で適切に使える。
【領域・内容】	<p>《読むことと書くこと》 小学校学年別漢字配当表のすべての漢字と、その他の常用漢字約600字の読み書きを習得し、文章の中で適切に使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを正しく理解していること 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること 熟語の構成を正しく理解していること 熟字訓、当て字を理解していること (乙女／おとめ、風邪／かぜ など) 対義語、類義語、同音・同訓異字を正しく理解していること <p>《四字熟語》 四字熟語を理解している。</p> <p>《部首》 部首を識別し、漢字の構成と意味を理解している。</p>

*常用漢字とは、平成22年11月30日付内閣告示による「常用漢字表」に示された2136字をいう。

準2級	
【程度】	常用漢字のうち1940字*を理解し、文章の中で適切に使える。
【領域・内容】	<p>《読むことと書くこと》 1940字の漢字の読み書きを習得し、文章の中で適切に使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを正しく理解していること 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること 熟語の構成を正しく理解していること 熟字訓、当て字を理解していること (硫黄／いおう、相撲／すもう など) 対義語、類義語、同音・同訓異字を正しく理解していること <p>《四字熟語》 典拠のある四字熟語を理解している(驚天動地、孤立無援 など)。</p> <p>《部首》 部首を識別し、漢字の構成と意味を理解している。</p>

*常用漢字とは、平成22年11月30日付内閣告示による「常用漢字表」に示された2136字をいう。

*1940字とは、昭和56年10月1日付内閣告示による旧「常用漢字表」の1945字から「勺」「錘」「銚」「脹」「芻」の5字を除いたものを指す。

2級	
【程度】	すべての常用漢字*を理解し、文章の中で適切に使える。
【領域・内容】	<p>《読むことと書くこと》 すべての常用漢字の読み書きに習熟し、文章の中で適切に使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読みと訓読みとを正しく理解していること 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること 熟語の構成を正しく理解していること 熟字訓、当て字を理解していること (海女／あま、玄人／くろうと など) 対義語、類義語、同音・同訓異字などを正しく理解していること <p>《四字熟語》 典拠のある四字熟語を理解している(鶏口牛後、呉越同舟 など)。</p> <p>《部首》 部首を識別し、漢字の構成と意味を理解している。</p>

*常用漢字とは、平成22年11月30日付内閣告示による「常用漢字表」に示された2136字をいう。

準1級	
【程度】	常用漢字を含めて、約3000字の漢字の音・訓を理解し、文章の中で適切に使える。
【領域・内容】	<p>《読むことと書くこと》 常用漢字の音・訓を含めて、約3000字の漢字の読み書きに慣れ、文章の中で適切に使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 熟字訓、当て字を理解していること 対義語、類義語、同音・同訓異字などを理解していること 国字を理解していること(峠、凧、畠 など) 複数の漢字表記について理解していること (國一國、交叉一交差 など) <p>《四字熟語・故事・諺》 典拠のある四字熟語、故事成語・諺を正しく理解している。</p> <p>《古典的文章》 古典的文章の中の漢字・漢語を理解している。</p>

※約3000字の漢字は、JIS第一水準を目安とする。

1級	
【程度】	常用漢字を含めて、約6000字の漢字の音・訓を理解し、文章の中で適切に使える。
【領域・内容】	<p>《読むことと書くこと》 常用漢字の音・訓を含めて、約6000字の漢字の読み書きに慣れ、文章の中で適切に使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 熟字訓、当て字を理解していること 対義語、類義語、同音・同訓異字などを理解していること 国字を理解していること(泳える、巻る など) 地名・国名などの漢字表記(当て字の一種)を知っていること 複数の漢字表記について理解していること (鹽一塩、颱風一台風 など) <p>《四字熟語・故事・諺》 典拠のある四字熟語、故事成語・諺を正しく理解している。</p> <p>《古典的文章》 古典的文章の中の漢字・漢語を理解している。</p>

※約6000字の漢字は、JIS第一・第二水準を目安とする。

平成24年度(2012年度)第1回検定から対応 日本漢字能力検定 各級の程度・出題内容

級	レベル・対象漢字数	程度	主な出題内容						合格基準	検定時間
1級	大学・一般程度 (約6000字)	常用漢字を含めて、約6000字の漢字の音・訓を理解し、文章の中で適切に使える。	漢字の読み	漢字の書取	故 事 ・ 諺	対義語・類義語	同音・同訓異字	200点満点 80%程度	各 60分	
			誤字訂正	四字熟語						
準1級	大学・一般程度 (約3000字)	常用漢字を含めて、約3000字の漢字の音・訓を理解し、文章の中で適切に使える。	漢字の読み	漢字の書取	故 事 ・ 諺	対義語・類義語	同音・同訓異字	200点満点 80%程度		
			誤字訂正	四字熟語						
2級	高校卒業・大学・一般程度 (2136字)	すべての常用漢字を理解し、文章の中で適切に使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	送り仮名	対義語・類義語	200点満点 80%程度		
			同音・同訓異字	誤字訂正	四字熟語	熟語の構成				
準2級	高校在学程度 (1940字)	常用漢字のうち1940字を理解し、文章の中で適切に使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	送り仮名	対義語・類義語	200点満点 70%程度		
			同音・同訓異字	誤字訂正	四字熟語	熟語の構成				
3級	中学校卒業程度 (1607字)	常用漢字のうち約1600字を理解し、文章の中で適切に使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	送り仮名	対義語・類義語	200点満点 70%程度		
			同音・同訓異字	誤字訂正	四字熟語	熟語の構成				
4級	中学校在学程度 (1322字)	常用漢字のうち約1300字を理解し、文章の中で適切に使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	送り仮名	対義語・類義語	200点満点 70%程度		
			同音・同訓異字	誤字訂正	四字熟語	熟語の構成				
5級	小学校6年生 修了程度 (1006字)	小学校第6学年までの学習漢字を理解し、文章の中で漢字が果たしている役割に対する知識を身に付け、漢字を文章の中で適切に使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	筆順・画数	送り仮名	200点満点 70%程度		
			対義語・類義語	同音・同訓異字	誤字訂正	四字熟語	熟語の構成			
6級	小学校5年生 修了程度 (825字)	小学校第5学年までの学習漢字を理解し、文章の中で漢字が果たしている役割を知り、正しく使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	筆順・画数	送り仮名	200点満点 70%程度		
			対義語・類義語	同音・同訓異字	三字熟語	熟語の構成				
7級	小学校4年生 修了程度 (640字)	小学校第4学年までの学習漢字を理解し、文章の中で正しく使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	筆順・画数	送り仮名	200点満点 70%程度		
			対義語	同音異字	三字熟語					
8級	小学校3年生 修了程度 (440字)	小学校第3学年までの学習漢字を理解し、文や文章の中で使える。	漢字の読み	漢字の書取	部首・部首名	筆順・画数	送り仮名	150点満点 80%程度		
			対義語	同じ漢字の読み						
9級	小学校2年生 修了程度 (240字)	小学校第2学年までの学習漢字を理解し、文や文章の中で使える。	漢字の読み	漢字の書取	筆順・画数			150点満点 80%程度		
10級	小学校1年生 修了程度 (80字)	小学校第1学年の学習漢字を理解し、文や文章の中で使える。	漢字の読み	漢字の書取	筆順・画数			150点満点 80%程度		

<出題内容について>

※常用漢字とは、内閣告示「常用漢字表」(平成22年)によります。

※各級の対象漢字は、すべての分野において出題対象となります。

※ここに示したのは出題分野の一例です。毎回すべての分野から出題されるとは限りません。またこのほかの分野から出題されることもあります。

※過去に出題された内容は、『漢検 過去問題集』(財団法人日本漢字能力検定協会発行)を参照してください。ただし、出題分野、出題形式、問題数は変わることがあります。

各級の配当漢字は、漢検ホームページをご覧ください。

日本漢字能力検定 採点基準(平成24年4月より適用)

(1)採点の対象

筆画を正しく、明確に書かれた字を採点の対象とし、くずした字や、乱雑に書かれた字は採点の対象外とする。

(2)字種・字体

- ①2～10級の解答は、内閣告示「常用漢字表」(平成22年)による。ただし、旧字体での解答は正答とは認めない。
- ②1級および準1級の解答は、『漢検要覧 1/準1級対応』(財団法人日本漢字能力検定協会発行)に示す「標準字体」「許容字体」「旧字体一覧表」による。

(3)読み

- ①2～10級の解答は、内閣告示「常用漢字表」(平成22年)による。
- ②1級および準1級の解答には、①の規定は適用しない。

(4)仮名遣い

仮名遣いは、内閣告示「現代仮名遣い」による。

(5)送り仮名

送り仮名は、内閣告示「送り仮名の付け方」による。

(6)部首

部首は、『漢検要覧 2～10級対応』(財団法人日本漢字能力検定協会発行)収録の「部首一覧表と部首別の常用漢字」による。

(7)筆順

筆順の原則は、文部省編『筆順指導の手びき』(昭和33年)による。常用漢字一字一字の筆順は、『漢検要覧 2～10級対応』収録の「常用漢字の筆順一覧」による。

(8)合格基準

級	満点	合格
1級/準1級/2級	200点	80%程度
準2級/3級/4級/5級/6級/7級	200点	70%程度
8級/9級/10級	150点	80%程度

「漢検」受検の際の注意点

【字の書き方】

問題の答えは楷書で大きくはっきり書きなさい。乱雑な字や続け字、また、行書体や草書体のようにくずした字は採点の対象とはしません。

特に漢字の書き取り問題では、答えの文字は教科書体をもとにして、はねるところ、とめるところなどははっきり書きましょう。また、画数に注意して、一画一画を正しく、明確に書きなさい。

<例>

- 熱 × 𤇀
- 言 × 𠄎
- 糸 × 𦉳

【字種・字体について】

(1)日本漢字能力検定2～10級においては、「常用漢字表」に示された字種で書きなさい。つまり、表外漢字(常用漢字表にない漢字)を用いると、正答とは認められません。

<例>

- 交差点 × 交叉点 (「叉」が表外漢字)
- 寂しい × 淋しい (「淋」が表外漢字)

(2)日本漢字能力検定2～10級においては、「常用漢字表」に示された字種で書きなさい。なお、「常用漢字表」に参考として示されている康熙字典体など、旧字体と呼ばれているものを用いると、正答とは認められません。

<例>

- 真 × 眞
- 飲 × 飲
- 弱 × 弱
- 涉 × 涉
- 迫 × 迫

(3)一部例外として、平成22年告示「常用漢字表」で追加された字種で、許容字体として認められているものや、その筆写文字と印刷文字との差が習慣の相違に基づくのみなせるものは正答と認めます。

<例>

- 餌 → 餌 と書いても可
- 遜 → 遜 と書いても可
- 葛 → 葛 と書いても可
- 溺 → 溺 と書いても可
- 箸 → 箸 と書いても可

注意

(3)において、どの漢字が当てはまるかなど、一字一字については、漢検ホームページや当協会発行書籍(2級対応のもの)掲載の漢字表で確認してください。

新しい審査基準に関する Q&A

Q1 | なぜ、審査基準が変わるのですか？

A. 平成22年11月30日付けで改定された常用漢字表が告示されました。
常用漢字表は社会で必要とされる漢字の基準です。漢検は社会や学校教育で必要とされる漢字能力の習得の度合いを測定する検定であるため、常用漢字表の改定に合わせて、すべての常用漢字を読み書き活用できるレベルである2級の審査基準を改定しました。また、2級に向けてより段階的に学習しやすいよう、これまでの級のレベル（例：「3級＝中学校卒業程度」など）を勘案したうえで、準2級～10級の審査基準も見直しました。

Q2 | 平成24年度からとは、具体的にいつ行われる検定からですか？

A. 平成24年度第1回から新しい審査基準での検定を行います。平成24年度の検定日程は、本冊子のP.12を参照してください。

なお、コンピューターで受検する「漢検CBT」では、平成24年3月31日(土)までは、平成23年度までの審査基準で検定を行います。

その後、メンテナンスのため、平成24年4月1日(日)から4月15日(日)まで一時的に検定を休止し、4月16日(月)から新しい審査基準での検定を開始します。

Q3 | 審査基準の改定により、対象漢字数や字種に変更はありますか？

A. 対象漢字数や字種に変更があるのは、以下の級です。

準1級	…	常用漢字を含めて約3000字の漢字(JIS第1水準を目安とする)。 ※従来の審査基準で1級対象となっていた漢字のうち、平成22年に常用漢字に追加された28字(「曖」「隼」などは準1級でも出題対象となる)。
2級	…	平成22年11月30日付内閣告示による「常用漢字表」にある2136字すべて。 ※昭和56年10月1日付内閣告示による旧「常用漢字表」の1945字から、「勺」「錘」「銑」「脹」「匆」の5字を除き、平成22年に常用漢字に追加された196字(「挨」、「宛」などを加えたもの)。
準2級	…	昭和56年10月1日付内閣告示による旧「常用漢字表」の1945字から、「勺」「錘」「銑」「脹」「匆」の5字を除いた1940字。
3級	…	従来の審査基準で、3級対象となっていた1608字から、「脹」の1字のみを削除した1607字。

Q4 | 各級の配当漢字は、何を見ればわかりますか？

A. 2～10級の配当漢字は、以下の方法でご覧いただくことができます。

- 漢検ホームページ(<http://www.kanken.or.jp/>)からダウンロードする。
- 当協会発行の書籍『漢検要覧 2～10級対応』を見る。
- それぞれの級に対応した当協会発行書籍を見る。

Q5 | 出題形式や問題数も変わるのですか？

A. 当協会では、漢字能力測定の精度を維持するために、毎回問題の構成を検討しています。したがって、審査基準の改定の有無にかかわらず、適宜、出題形式や問題数を変更することがあります。

Q6 | 合格基準(例：「3級＝200点満点 70%程度」など)に変更はありますか？

A. 審査基準の改定に伴う合格基準の変更はありません。
※各級の合格基準は、P.4、P.5に掲載しています。

Q7 | 2級の新しい審査基準には「人名用漢字」という記載がありませんが、2級から人名用漢字の出題はなくなるのですか？

A. はい。新しい審査基準の2級では、平成22年11月30日付けで常用漢字に加わったものを除き、人名用漢字は出題対象となりません。
常用漢字表改定に伴い、一部の人名用漢字は常用漢字表に含まれることとなりました。これを受け、2級のレベルを総合的に勘案し、上記のとおり判断しました。

Q8 | 新しい常用漢字表は、どこで確認することができますか？

A. 文化庁のホームページ(<http://www.bunka.go.jp/>)にてご確認ください。

Q9 | 常用漢字表の改定で、読み方が追加されたもの(例：「育(はぐくむ)」)がありますが、これは平成24年度以降の検定の出題範囲に含まれますか？

A. 常用漢字表に入っている読み方は、検定の出題範囲に含まれます。

Q10 | 中学校や高等学校で学習する読み方は、その漢字が配当されている級で出題されますか？(例：9級配当漢字「麦」ー「むぎ」の読みは小学2年で学習するが、「バク」の読みは中学校で学習)

A. 新しい審査基準の検定では、「中学校で学習する読みは4級以上で出題対象」となり、「高等学校で学習する読みは準2級以上で出題対象」となります。
どの読みが、中学校で学習する読みや高等学校で学習する読みに該当するかは、平成24年2月中旬に当協会から発行する『漢検要覧 2～10級対応』などに掲載しています。

Q11 | 常用漢字表の備考欄に示された内容は出題対象となりますか？ また、採点の際、考慮されますか？

A. 備考欄に示された内容も常用漢字表に含まれると考えます。したがって、検定でも出題対象となります。また、採点する際は備考欄の内容も考慮します。
(例：常用漢字表の「十」の音訓欄に「ジツ」の読みがあるが、備考欄に「「ジュツ」とも。」とある。「十回」の読みは「じっかい」「じゅっかい」とも正解になる。)

Q12 | 筆順や部首に関する変更はありますか？

- A.** 従来から常用漢字表に入っていた字種の筆順や部首の分類に変更はありません。
新しく常用漢字表に追加された字種の筆順・部首は、平成24年2月中旬に当協会から発行する『漢検要覧 2～10級対応』や『漢検 2級 漢字学習ステップ』などに掲載しています。
※「𪛗」については、部首名を「のごめ」から「のごめへん」に変更します。

Q13 | 「餅」を「𪛗」、「𪛗」を「𪛗」のように書いてもよいですか？

- A.** 2～10級の検定では、「常用漢字表」に示された字体を用いて答えなければなりません。ただし、例外として、平成22年告示「常用漢字表」で追加された漢字のうち、許容字体が併せて示されたものは正解とします。「餅」や「𪛗」という字体はこの例外に当てはまりますので、正解となります。

Q14 | 平成23年度以前の検定で取得した級は、無効になりますか？

- A.** いいえ、無効にはなりません。

Q15 | 新しい審査基準の検定で取得した場合と、平成23年度以前の検定で取得した場合は、同じ級であれば同じレベル（例：「3級＝中学校卒業程度」など）と捉えてもよいのでしょうか。

- A.** はい。今回の審査基準改定では、各級のレベル（例：「3級＝中学校卒業程度」など）に変更はありません。

Q16 | 大学入試や高校入試で漢検の資格評価をしているとありますが、新旧どちらの審査基準で取得した級でも同じように評価されるのでしょうか。

- A.** 入試における資格評価は、入試を行っている大学、高校等で決められていますので、一概にお答えできません。
当協会が現在公表している、入試で漢検を評価する大学・高校の一覧は、平成24年度（2012年度）入試に関する情報です。平成25年度の資格活用状況についても調査を実施する予定です。

Q17 | 新しい審査基準の検定の対策はどのように行えばよいですか。

- A.** 新しい審査基準に対応した書籍を平成24年2月中旬から順次発売しますので、そちらをお使いください。
新刊書籍の詳しい情報は、本冊子のP.10～11をご覧ください。
※あくまで当協会発行書籍の発売時期を指します。

Q18 | 現在、平成23年度以前の審査基準対応の問題集を持っています。新しい審査基準で行われる検定の対策に使用できますか？

- A.** 1級および5級～10級は、審査基準に実質的な変更がないため、そのまま使用できます。
2級は追加字種が196字あるため、新しい審査基準に対応した書籍を使用することをお勧めします。
準1級および準2級～4級も、より確かな対策のために、新しい審査基準に対応した書籍を用いて学習することをお勧めします。
※あくまで当協会発行書籍に関することです。他社発行の書籍についてはお答えいたしかねます。